豊明市議事課
2年2.10
分類 ・ ・ 30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第 53 号 受付

令和元年度　豊明市議会運営委員会行政視察　報告書

令和２年１月 20 日(月)　愛知県豊田市議会
「バリアフリーの取り組みについて」

令和２年１月 21 日(火)　東京都あきる野市議会
「議会だよりについて」

豊明市議会運営委員会

委員長	近藤 郁子
副委員長	近藤 善人
委員	毛受 明宏
	近藤 千鶴
	ごとう　学
	鵜飼 貞雄
	青木　　亮
	堀内 ちほ
随行	議会事務局長

1月20日(月)　愛知県豊田市議会「バリアフリーの取り組みについて」

1．今回のバリアフリーの取り組みについての視察は、障がいをもつ議員への合理的配慮がどのように行われているかを調査するものである。今までは住民へのバリアフリーについて、庁舎をはじめ公共施設において整備することを念頭においてきたが、選挙を経て当選した議員の活動が合理的配慮の下に円滑に行うことができるようにするためにはどのような配慮が必要かを視察した。

豊田市では、今期の統一地方選挙で聴覚障がいをもつ議員が誕生した。普段の生活では手話を言語とし、他にはタブレット端末を使用されている。

障がいについては、人それぞれであるが、今回は聴覚障がいを有する議員への取り組みについて、ハード面、ソフト面から議員本人、他議員、議会、当局の対応を視察した。

2．豊田市の取り組み「聴覚障がいのバリアフリー」

①手話通訳

・当該議員は手話を用いて発言するため、手話通訳者を介して会議に臨む。
手話通訳者は、自席で当該議員の発言内容を読み取り発話し、議長や執行部等の発言を手話にして、当該議員に手話で伝える。手話通訳者は交代要員を必要とし常時２人の手話通訳者を議場に配置する。

・一般質問や議案質疑の際も同様に、手話通訳を介して質問するが、執行部とのやり取りのため、その際は議員サイドの手話通訳者と執行部サイドの手話通訳者を同時に２人移動して通訳する。

・演壇で討論する際も、演台の議員に正対し、議員の手話を通訳発話する。
※ 本会議中は時間も長時間になり、４人くらいの手話通訳者が必要。
※ 行政用語に慣れる必要有り。※必要に応じて、資料の指目補助者を配置する。
※ 採決も、「異議なし」の簡易採決から、挙手採決に変更した。

② 公費手配～負担　（昨年５月の補正予算で手話通訳者報償費200万円要求）

・議員間の公平性も勘案して、議会活動と議員活動を分けて行う。
・議長が召集する会議に、議員又は委員として出席する場合は公費手配～負担。
・公務による視察の際は、原則公費手配し、視察先で手配を依頼する。
・その他、議会事務局又は市執行部からの報告、説明時も公費手配～負担。
※ 実際には、筆談ボード(３台18,000円)やスマホアプリを活用することもある。
※ その他に、呼び出し機器等を控え室に設置したりした。
・音声認識システムによる会議要旨を他議員と公平性を保ちながら提供している。
※ 政務活動費条例の一部を改正し、意思疎通支援者謝礼を追加した。

③ 合理的配慮について

・聴覚障がいと一言で言っても、個々で障がいが異なるため、個々の意思を尊重することが大切である。

【所感】　昨年、国会でも重度の障がいをもつ議員が誕生した。国民が選んだ議員の活動が障がいを理由に閉ざされてはいけない。地方議会においても、その環境整備は遅れている。豊明市においては、議場はスロープでなく段差があり、傍聴席も車椅子で入場は困難である。市庁舎の中でバリアフリーから一番遠い場所であることを再認識することになった。

現在は、障がいを持つ議員はいないが、いつ誕生してもそれぞれの障がいで議員活動が妨げられることがないよう、個々の意思が尊重されることが本当の合理的配慮であり、バリアフリーであることを踏まえた対応をしていく準備をしていかなくてはならない。

1月21日(火)　東京都あきる野市議会「議会だよりについて」

1．・議会が何をしているのか、何をするところなのか、知らない人が多いと感じることが多い。議会報告会への来場者は横ばいから徐々に減員しているのは、議会が何をするのか、どんな役割、役目をしているのか興味が持てないことが一因であると考えられる。
・そのためのツールとして議会だよりを先ず手にとってもらうことが必要である。

2．あきる野市の議会だよりリニューアル
・多くの人に手にとって手にとってもらう議会だよりを目ざして、調査検討グループを結成して市民アンケートを実施。
Q：どこの議会だよりがいい？→　投票結果：あきる野市がいい→全体の４％

3．編集委員会→代表者会議へ提案し、リニューアル決定。
目的：多くの人に手にとってもらえる議会だより！
目標：①「手にとってもらえる表紙作り」
・興味を引く特集と表紙→リンクさせる【ターゲットを絞った特集】
・広報広聴委員会委員任期２年分の対象を決定し委員が取材する
②「気づきを与える表現や読みやすさの工夫」
・文字の視覚効果→軽く現代的イメージで　タイトルを『ギカイの時間』にした。
・読みやすさの工夫：導線と統一感と余白に工夫
・さらっと読める分量と余白増で息苦しくない誌面にする
・裏表紙は、小学生が夢を語るコーナー
③見直しのポイント
【議会審議】
・行政用語を分かりやすい言葉に変える。
・「知らせたいことと知りたいこと」「読んでほしい量と読める量」の差を読み手に合わす。
・市民目線で市民生活にどう関わるか→ピックアップして掲載→議会への窓口に！
【一般質問】
・文字制限は厳守し、顔写真の下に個人の動画を見るためのQRコードを掲載。写真も同じ大きさに統一して見やすさを最優先した。
④リニューアル４年後に市民アンケート
結果は、周知不足が明らかになったこと、その中にあって情報量はちょうどよいが74％。
⑤今後：継続性を保つ→コンセプトを守る・４年に１回の見直し検討する。
配布方法も検討する。

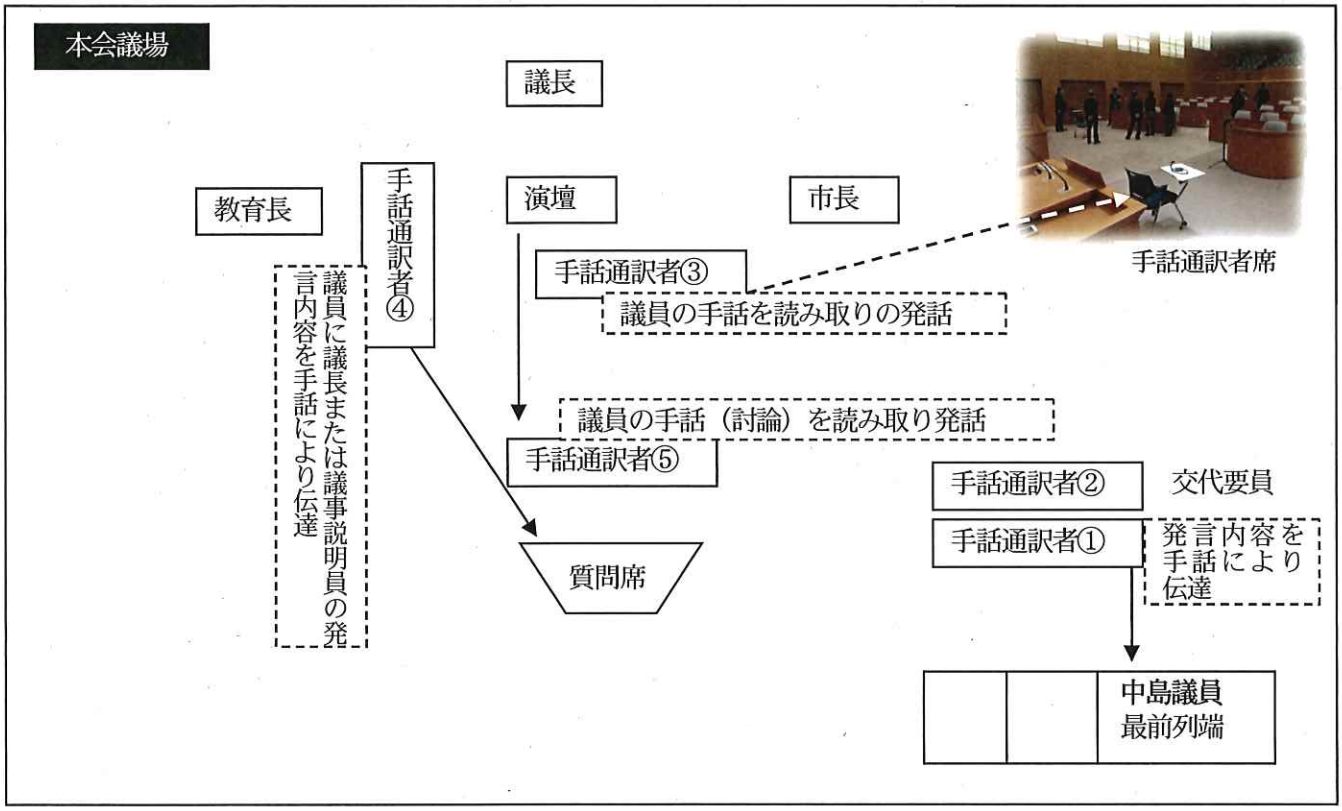
【所感】　リニューアルするにあたり、知り合いのプロのデザイナーに力を借りただけあって、おしゃれな誌面だと思う。出来るだけ多くの情報を載せたい議会(議員)と、読み手(市民)の読みやすさに差があることを痛感した。余白が少ないことで見にくさが発生していることは、議会の様子を知ってほしい思いが逆に手に取りにくい誌面になっていて、自己満足で固まっているように思う。視察の冒頭のご挨拶から、ＴＴＰ＝徹底的にパクってくださいと仰った。先ずはそこから始めていくのもいいかもしれない。
何もないところからはじめる事の大変さを感じた。

議会運営委員会行政視察報告書　　2020.　1/20・21　　副委員長　近藤 善人

愛知県豊田市　『バリアフリーの取り組みについて』　　1月20日（月）

2019年4月の統一地方選挙で、聴覚障がいのある中島議員が当選。
中島議員は、生まれつき聴覚障がいがあり、ろう学校を経て大学に入学。在学当時から、日本の福祉行政の遅れと、障がい者への理解不足が気になっていた。変えるには政治の力が必要と思い、自分が議会に立って訴えたいと立候補し、当選。

中島議員の当選を機に議場のバリアフリーが進められることになる。



上図のように5名の手話通訳者を配置し対応しています。この他にも、必要に応じて指さし補助者の配置、中島議員の傍聴については手話通訳者を配置し、傍聴席に音声認識システムによる自動文字表示モニターの設置も検討しています。

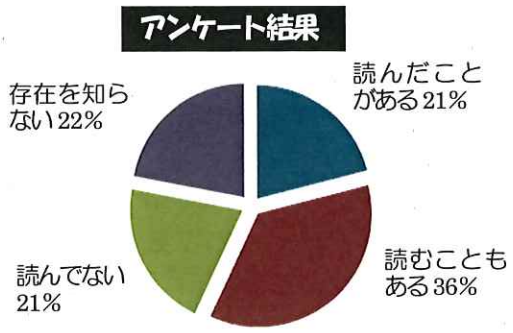
公費負担による手話通訳者の費用については、令和元年5月臨時会での補正予算として、200万円を要求。

＜所感＞

まだ、1年も経っておらずバリアフリーも道半ばで、課題も浮かび上がってきました。本会議及び委員会において他の議員の質疑答弁、本会議における討論など、手話通訳のみで十分に意思疎通できないことがあることや、議会中に集中して複数人の手話通訳者の手配を要するため、執行部側の手話通訳職員（窓口対応）配置に欠員が生じるケースがあるなどの課題を今後どう克服していく

のかを引き続き見守っていくことが必要で、本市においても障がいのある議員が当選した場合の対応を今のうちから考えておかなくてはならないと感じた。ただし、障がいの部位や本人の希望により利用するアイテムは、状態に応じた対応が必要である。

東京都あきる野市　『議会だより』について　1月21日（火）



あきる野市議会では、平成27年6月に議会基本条例を制定し、議会改革に取り組んできました。議会だより『ギカイの時間』のアンケート調査は、今まで以上に市民の皆さんに分かりやすい、伝わる、開かれた議会を作っていくことを目的に実施した結果、「読んでいる」・「読むこともある」を合わせて57%と、読んでいる人が半数を超えた一方で、「存在を知らない」が22%と、まだ「ギカイの時間」の周知は十分ではありませんでした。また、存在を知っていても「読んでいない」人が21%と、決して少なくなく、引き続き市民が「読みたい」と思える紙面づくりを考えていくことになりました。

リニューアルにあたり、いくつかの自治体の「議会だより」を参考にし、「手にとってもらえる表紙づくり」や「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」、ホワイトスペース（空白）を設ける、全体の統一感をだす、行政用語を通じる言葉にすること、イラスト・写真の活用など試行錯誤しながらより読みやすく、読んでもらえるような紙面づくりを行ってきました。

「ギカイの時間」の特徴的な3つのポイント

① 表紙へのこだわり、手に取ってもらえる表紙づくり
② 詰め込みすぎない
③ 号ごとにターゲットを変え、新規読者を獲得する

今後の課題として、新聞折り込みをしていることで、新聞購読をしていない世帯への配布や『ギカイの時間』そのものの存在自体知らない人へどのように周知していくのかなど、『ギカイの時間』を手に入りやすい環境を作ることの課題が見えてきました。

＜所感＞

いくつもの自治体の議会だよりを参考にし、調査研究しただけのことはあり、完成度の高い議会だよりに仕上がっています。

あきる野市議会だより『ギカイの時間』を見て、まず思ったことは、非常にすっきりまとまっており読みやすいと感じました。特にホワイトスペース（空白）を有効に使い文字ばかりでは読者に

敬遠されてしまいそうな紙面に空白を設けることでスッキリとさせています。全体のレイアウトもまとまりがあり読みやすくしてあります。

本市では、いまだ、広報広聴委員会がなく議会運営委員会で編集しているため、まずは、広報広聴委員会を設置し、議会だよりの構成・編集に集中できる環境を作ることが必要で、そのような環境ができたら他の自治体（あきる野市など）を参考にし、市民の方が読みたいと思うような「議会だより」になるようにしていかなくてはならないと感じた。

令和元年度 議会運営委員会行政視察

実施日　令和２年１月 20 日月曜日～21 日火曜日

１月 20 日　愛知県豊田市　　バリアフリーへの取り組みについて

１月 21 日　東京都あきる野市　議会だよりについて

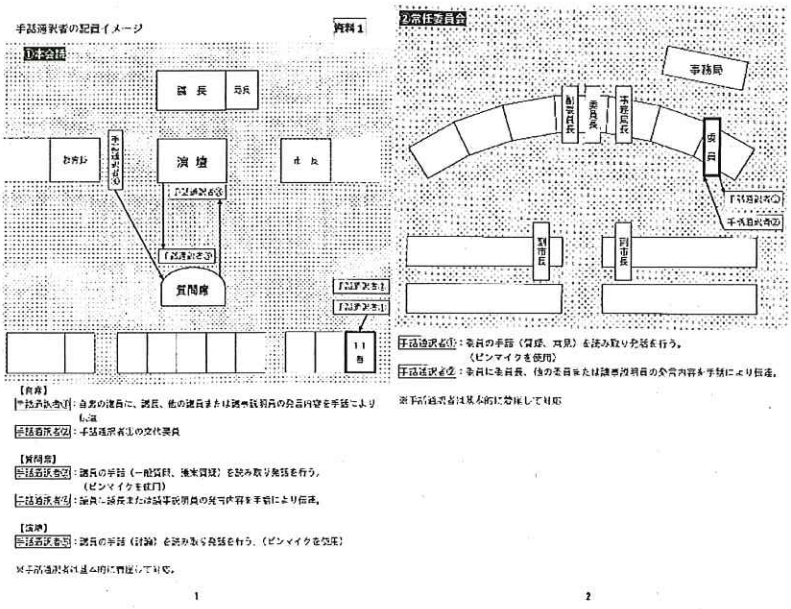
出席者　委員長 近藤郁子・副委員長 近藤善人・議会事務局長

毛受明宏・近藤千鶴・後藤学・鵜飼貞雄・青木亮・堀内ちほ

毛 受 明 宏

1月20日　月曜日　愛知県豊田市 バリアフリーへの取り組みについて

・平成31年4月の改選にて聴覚障がい者(1名)が当選し、議長が招集する会議に議員又は委員として出席する場合に、会議時間等を考慮したうえで必要な人数の手話通訳者を公費負担により設置するようになった。(※平成 11 年 12 月より議会傍聴に対する手話通訳・要点筆記手記について対応をしている。)
その公費負担による手話通訳者の費用について、令和元年5月臨時会において補正予算として2,000千円を要求した。
・5月臨時会からは手話通訳者の手配及び議場・委員会室の配置場所等の調整し、簡易決済から挙手決済に変更した。
・補正予算の提出・議決について、筆談ボード、議員控室呼び出し機器などを導入し、議会運営及び行政視察については、当該議員出席の委員会行政視察の視察先に手話通訳者の手配を依頼する。
・6月定例月議会から本会議場、所属委員会及び他の委員会傍聴時に手話通訳者配置、本会議における議案質疑リハーサル及び支援、所属委員会の資料指目(指さし補助)。
執行部の当該議員への対応で市の福祉常駐の手話職員の支援よる意思疎通。



本会議場　　委員会室

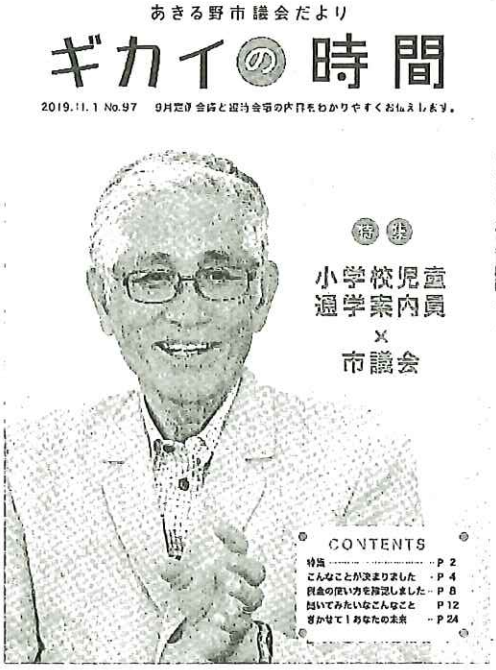
《まとめ》

視察当日も質疑をした、他議員とのコミュニケーションについて、たまたま視察終了後に当該議員とお会いする機会をいただき、手話のできない私は戸惑いましたが、当該議員さんは私の口元をしっかり見て読み取りをし、ある程度理解が出来る方でした。視察中に見えた議会運営や調査研究に対する公費負担分の在り方については豊田市議会も検討中の部分もあり、当市でも実際に障がい者議員が誕生する事でもあれば、検討の数々が考えられる。

1月21日　火曜日　東京都あきる野市 議会だよりについて

・議会報リニューアルまでのプロセスとして、平成23年10月に10市町の議会報冊子を並べ「何番の議会報冊子を手に取って読みたいですか？」との市民向けアンケートを実施し、当時のあきる野市議会は270人のアンケート協力中4%で、平成24年5月より内容検討に入り、編集委員会と代表者会議へ提案の後、リニューアル決定
・「手にとってもらえる表紙作り」「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」を目指し、いつまでに実施するか決める。
・毎号特集としてターゲットを絞った内容を編集する。
「子育てママ・若手農業者・大学生等々」編集委員2名ほどで団体さんへ出向いて交渉からインタビューまで取材し、記事を起こす。

以下、リニューアル号として


あきる野市議会だより
ギカイの時間
2019.11.1 No.97　9月定例会時と選挙会等の内容をわかりやすくお伝えします。

特集
小学校児童
通学案内員
×
市議会

CONTENTS
特集 …… P 2
こんなことが決まりました …… P 4
税金の使い方を陳情しました …… P 8
聞いてみたいなこんなこと …… P 12
ざかなて！あなたの未来 …… P 24

和らいだ題目の表現

平成30年度決算をチェック
このような理由で一般会計決算の認定に賛成・反対しました

定例会議最終日に、決算特別委員会で審査した結果を中村委員長が報告し、各会派が平成30年度一般会計決算の内容について賛成・反対の討論を行いました。討論の主な内容を掲載します。

賛成
明るい未来を創る会

反対
自由民主党志清会

一目瞭然の議案賛否

逆に余白が読みやすさを与える　　表紙の特集も裏面の取材も読みやすい

《まとめ》

豊明市議会だよりとの違いは？文字を詰めすぎの読みづらさから、余白が逆に読みやすさを与える効果を感じた。（あきる野市も過去は文字の詰めすぎを反省しいる。）

特集についても、豊明市議会では市民団体と議員全員で意見交換会をしているが、お互いがかしこまった心境となる。あきる野市では編集委員 2 名ほどと団体さんのインタビュー形式で実直な意見が出ているのではないかと思う。

過去は似たような編集方法であったかと思いますが、あきる野市は期限を決めてバッサリと切り捨てリニューアルに至ったことに感心する。

議会運営委員会　行政視察報告書

近藤千鶴

１月２０日　豊田市　バリアフリーへの取り組みについて

（１）障がいを有する議員への活動支援について
・議員傍聴に対する手話通訳・要約筆記手配（５日前までに申し込み）

（２）平成３１年４月改選直後
「手話通訳者についての確認事項」

１　公費負担・公費手配するもの
（１）議長等が招集する会議に議員又は委員として出席する場合は、会議時間等を考慮したうえで必要な人数の手話通訳者を公費負担により設置する。
（２）公務による視察に出席する場合についても、原則、公費負担により手話通訳者を設置及び視察先に手配を依頼する。
（３）市議会事務局又は市執行部からの報告・説明など、上記の会議に付随する場合は、手話通訳者を公費負担により設置する。
２　上記以外のもの
（１）原則、当該議員が手話通訳者の手配を行うものとする。なお、手話通訳者にかかる経費を政務活動費として計上することを今後検討する。
３　その他
（１）公費負担による手話通訳者の費用については、令和元年５月臨時会での補正予算として、２０００千円を要求する。
（２）その他の事項については、その都度協議する。
（３）５月臨時会から
①手話通訳者の手配及び議場・委員会室における配置場所の調整（自席・質問席）
②簡易採決から挙手採決への変更
③補正予算の提出・議決（手話通訳者に関する報償費 2000 千円）
・筆談ボード購入（３台 18000 円）【５月】
・議員控室呼び出し機器（セントラルアラート　32000 円）
・議員運営及び行政視察に関する対応について整理【５月】

（4） 6月定例会から

①報道機関における本会議及び委員会開催時の取材対応に関する方針の整理・依頼

②本会議、所属委員会及び他の委員会傍聴時における手話通訳者の配置

③本会議における議案質疑のリハーサル及び本番の支援

④所属委員会における資料の指目（指差し補助）

⑤音声認識システムによる会議要旨の提供

⑥政務活動費条例の一部改正条例提出・議決（意思疎通支援者謝礼追加）

⑦執行部の当該議員への対応

⇒市福祉部常駐の手話通訳職員の支援による意思疎通

・中島議員、手話通訳者、関係部局（障がい福祉課）、議会事務局による意見交換の実施【7月】

・正副議長、議運長、手話通訳者及び関係部局（障がい福祉課、議会事務局）による意見交換の実施【7月】

・他市の状況調査の実施（副議長、議運長及び議会事務局が明石市議会を視察）【7月】

・行政視察先の手話通訳者手配　33000円【7月】

・会議時発話用ピンマイク2基購入　84000円【8月】

（5） 9月定例会から

①一般質問、討論のリハーサル及び本番の支援

②手話通訳者の議場おける配置場所等の調整（演壇）

まとめ

今回、豊田市のバリアフリーへの取り組みについて視察させていただく前から、本市も次回改選時必要となる可能性はなくはないのではという思いがありました。議事課の担当部局は選挙前と後にも先進地の視察をされたとお聞きし、取り組みの大変さを感じました。一番問題点になったことは、対象議員に対してどこまで事務局が対応するかだったそうです。また今後、障がい議員が当選された時は、その都度対応協議していくそうです。

本市において今後取り組みが必要な時がくるかもしれません。議会としてどこまでの対応をすることが良いのか、豊田市をはじめ先進地に学んでいくことはとても大事なことと感じました。

１月２１日　あきる野市　議会だよりについて

議会報リニューアル「ギカイの時間」ができるまで

① リニューアルまでのプロセス

調査研究グループ結成（議員３、職員１）

平成２３年１０月　市民アンケート実施

～２４年５月　内容検討　全１０回

編集委員会へ提案　⇒　代表者会議へ提案　⇒リニューアル決定

・なにを

「手にとってもらえる表紙づくり」「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」

・いつまでに

平成２５年２月１日　第７０号

② 検討内容　その１：興味を引く招集と表紙（ターゲットを決める）

ターゲットを絞った特集

・号ごとにターゲットを変え、時間をかけて全ターゲットを獲得

・取材の方法は…

対象者は、議員が人選する委員が取材の対応を行う

議会と市民との距離を縮める効果も

・表紙＝特集とリンクさせる

カラー、断切り１人写真、タイトル

タイトル＝引っかかるもの、思いをのせる（方針）

③ 検討内容　その２：読みやすさ

・導線

・ホワイトスペース

・統一感

④ 検討内容　その３：裏表紙

・小学生が夢を語るコーナー

・スケジュールや啓発的な記事の掲載

⑤ 検討内容　その４：議案審議・一般質問

見直しのポイント

・行政用語を「通じる言葉」に

・知らせたいことと知りたいことの差
・読んでほしい量と読める量の差

⑥ 効果・議題

効果測定実施（平成２５年４月１９日）　１７０人／２００人　８５％

・議会だよりを読んでいますか
　読んでいる２１％、読むこともある３６％、読んでいない２１％、
　存在を知らない２２％
・情報量については
　ちょうどいい７４％、もの足りない２４％、多すぎる２％
・継続性
　コンセプトを守る
　担当者の理解
　４年に１回の見直し検討
・配布方法
　市民への配布義務

まとめ

議会だよりのリニューアルについては、本市の議会は毎年の課題でした。あきる野市議会も市民の方に多く読んでほしいとの思いでリニューアルをされました。リニューアルまでの取り組みは、事務局にも多大な協力をお願いしてできたものでした。あきる野市は広報も議会だよりも新聞折り込みで市内３万５０００世帯数に対して２万３０００部と全体の３分の２程度の配布となっていることは、課題だそうです。これには市内自治会加入数が地域により大きな差があるのも理由の１つだそうです。

本市の議会だよりをどうしていくのかは、議会でよく検討していく問題と思います。現在の議会だよりを読んでくださっている市民の方の声をお聞きし、読んだことがない方も読んでみようと思っていただけるような議会だよりに変われば、議会をより身近に思っていただけるのではと思います。

議会運営委員会視察報告書

ごとう　学

愛知県豊田市（R. 2. 1. 20 視察）

1. 市の概要

県中央部に位置し、県下最大の面積を持つ。日本を代表するグローバル企業のトヨタ自動車が本社を置く工業都市である一方、市域の 7 割が森林で田園地帯も広がり、農業も盛んである。面積 918.32 ㎢、人口 425,172 人で、財政力指数は 1.52、経常収支比率 76.4％の優良自治体である。

議会は、議員数 45 名で、常任委員会は、企画総務（9 名）、地域生活（8 名）、教育社会（9 名）、環境福祉（9 名）、産業建設（9 名）、予算決算（44 名）の 6 委員会となっている。

2. 視察テーマ「**バリアフリーへの取り組み**」について

・平成 11 年から、議会傍聴への手話通訳・要約筆記を事前申し込みにより行っていたが、平成 31 年の改選で聴覚障がいの方が議員となり、バリアフリーへの取り組みが大きく進んだ。
・4 月の改選直後、本会議、委員会など議長が招集する会議、それらに付随する市執行部からの報告・説明、公務による視察等には議会として手話通訳者を設置することを確認した。その他については、原則、本人が手配し、その経費を政務活動費として計上することを検討することとした。
・5 月臨時議会から、手話通訳者の配置場所の調整、簡易採決から挙手採決への変更、手話通訳予算 200 万円の計上、筆談ボード等備品の購入を行った。
・6 月定例会から、報道機関の取材対応の整理、議案質疑の支援、所属委員会での資料の指差し補助、音声認識システムによる会議要旨の提供などを行った。
・庁舎及び議場のバリアフリー対応としては、議場内を車いす使用可能なフロアとし、傍聴席への車いすスペース 6 台分が設置されている。
・これまでの対応により、議員、執行部側ともにバリアフリー対応の意識が高まったが、一方、手話通訳のみでは意思疎通が十分できないなど課題もある。

3.視察の所感

国会では、重度の障がいを持つ議員の出現によって革命的な変化が起きているが、身近な自治体である豊田市においても、大きなインパクトがあったことを再認識させられた。障がいの内容が変われば、また別のかたちでの対応が必要となることを考えると、非常に奥の深い問題だと感じた。

同時にこのことは、自分たちの障がいに対する理解が、これまでいかに貧弱であったか、その表れであることも痛感させられた。豊明市議会でも、傍聴者、議員双方を視野に、ノーマライゼーションに取り組んでいかなければならない。

東京都あきる野市（R. 2. 1. 21 視察）

1.市の概要

都心から 40～50km 圏に位置し、平坦部と奥多摩の山々に連なる山間部からなる。首都圏のベッドタウンとして発展してきたが、近年の人口は減少基調。面積 73.47 ㎢、人口 80,985 人で、財政力指数は 0.74、経常収支比率 98.9％である。

議会は、議員数 20 名で、常任委員会は、総務(6 名)、環境建設(7 名)、福祉文教（7 名）の構成となっている。

2．視察テーマ「**議会だより**」について

・あきる野市は、かつて議会報コンテストで入賞する優良団体であったが、ある職員研修で全国 30 誌のうちだれからも選ばれなかったことに衝撃を受け、超党派議員 3 人と事務局で調査研究グループを結成した。

・平成 23 年 10 月に、庁舎に 10 誌を掲示して来庁者 270 人にアンケートした結果、あきる野市を選んだ人は 4％（同情票？）に過ぎず、リニューアルすべき客観的根拠となった。

・課題を「手に取ってもらえる表紙づくり」と「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」とし、半年間でまとめることとした。

・検討 1 「興味を引く特集と表紙」：号ごとにターゲットを絞った特集を組み、委員が取材。表紙をこれとリンクさせ、市民にギカイの時間をとってもらう。

・検討 2「読みやすさ」：読むときの導線を考え、字数制限により思い切った余白をつくり、緑を基調とする。（デザイナーにトータルデザインを依頼）

・検討 3「裏表紙」：小学生が夢を語るコーナーを設け、これも委員が取材し記事を書く。わかりやすいスケジュールや啓発的な記事を掲載する。

・検討 4「議案審議・一般質問」：議案は、重要案件のピックアップ方式とし、わかりやすい文章に置き換え、写真付きで説明。一般質問は、一問一答方式・答弁者名カット・顔写真入りとし、動画を見られる QR コードを表示する。

・以上をふまえ、市役所で市民 200 人にリニューアル前後の見比べアンケートをしたところ、85％が後を選ぶという効果があった。ただ、議会だよりを読んでいない 21％、存在を知らない 22％と、課題があることも分かった。

3.視察の所感

配布された議会だよりですっきりとした紙面に見やすさを感じた。読んでみると、情報量の少なさが気になったが、QR コードで一般質問の動画が見られるようにバックアップされており、議案についても今後同様にしたいとのこと。考えてみれば、こんな工夫は今どき当たり前のことなのに、気づかなかったことを反省させられた。議案等の賛否も、重要案件を Pickup としていることも目から鱗であった。

ひとつ気になったのは、議会だより配布が新聞折り込みであること。新聞購読率が 60％程度の現状ではせっかく工夫しても、届かない市民が多いのは残念だ。

議会運営委員会行政視察報告書

提出者　鵜飼　貞雄

視察期間：令和２年１月２０日(月)～１月２１日（火）
視察先　：愛知県豊田市役所
　　東京都あきる野市役所

１日目

バリアフリーへの取り組みついて（豊田市）

●現状と取り組み

・平成１１年１２月から議会傍聴に対する手話通訳や要約筆記に対応できるようにしていた。

・平成３１年４月の改選で聴覚障がいの方が当選されたため、議員活動を支援するためバリアフリーへ取り組まれた。議会事務局は改選前より先進事例を有する兵庫県明石市への視察などを行い、事前にある程度想定される事項に対応する準備をされた。

・改選直後の会派代表者会議にて、下記事項の確認を行った。

① 議長等が招集する会議に議員や委員として出席する場合、必要な手話通訳者を公費負担で設置する。

② 公務による視察に出席する場合、視察先に手配を依頼し公費負担する。

③ ①の会議に付随する場合手話通訳者を公費負担で設置する。

④ ①②③以外は原則当該議員が手配する。費用を政務活動費で計上できないか今後検討する。

⑤ 手話通訳者の費用について、令和元年５月臨時会での補正予算として２００万円要求する。

⑥ その他は都度協議する。

・簡易採決をやめ、挙手採決へ変更。

・議場内は車いす使用可能なフロア設計で、傍聴席１２２席に車いすスペースが６台分ある。

◆所見

豊田市では、予てより議場のバリアフリーに取り組まれていた。平成３１年の改選で状況も変わることを想定しつつ柔軟に対応し、議会の進行に支障も出ていないようで、この取り組みに対する意識の高さが窺えた。

聴覚障がいの議員とは、十分な意思疎通ができないことがあったり、複数人の手話通訳者を要することで窓口対応等の手話通訳者に欠員が生じたり様々な課題もあり、現時点はまだ入り口の段階であるようだ。

ここまで先進的な豊田市でさえも、手探りの状況のようでバリアフリー対応の難しさを理解できた。議員や議会のみならず、執行部側もバリアフリー対応の意識を高く持つ必要があるようだ。

２日目

議会だよりについて（あきる野市）

●現状と取組み

・多くの人に見てもらえる議会だよりを作るため、議員３名と職員１名から構成される調査研究グループを結成。
・平成２３年１０月に市民アンケートを行った結果、ほとんどの人が見ていないことがわかり、内容検討などを繰り返しリニューアルを決定。
・巻頭特集では発行号毎にターゲットを変え、すべての層をターゲットにできるようにした。
・プロのデザイナーの力を借り、ホワイトスペースの使い方や導線、紙面の統一感に気を遣い読みやすい紙面を目指した。
・生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間にしてほしいとの思いからタイトルは「ギカイの時間」と決定した。
・配布方法は新聞折り込みとし、全戸配布には至っていない。

◆所見

多くの人に見てもらいたいとの思いから、大幅なリニューアルを果たしたあきる野市議会だより。議会を知らない多くの市民に対しても読みやすい内容で、実際に市民からの評判も良いようである。

当市でも言えるが、専門用語を並べ難しそうに見える紙面を作ることは自己満足でしかなく、一部の読み手にしか伝わらない事ばかりである。議会を身近に感じてもらうためのツールでもある議会だよりを、多くの人に見てもらうためにも、全面刷新も必要と感じた。

令和元年度

議会運営委員会行政視察報告書

豊明市議会議員　青　木　　亮

令和２年１月 20 日（月）
愛知県豊田市　　「バリアフリーへの取り組みについて」

令和２年１月 21 日（火）
東京都あきる野市　「議会だよりについて」

上記の視察項目についての報告書を添付して報告とします。

愛知県豊田市

東京都あきる野市

愛知県豊田市　「バリアフリーへの取り組みについて」

R2/1/20 視察

■主な視察内容

□障がいを有する議員への活動支援について

平成 11 年 12 月から議会傍聴に対する手話通訳・要約筆記の手配を行っていたが、障がい議員への新たな対応に向け事務局は、事前に明石市、戸田市への視察を行った。

平成 31 年 4 月改選直後、新たな障がい議員からどのような対応、介助が必要かを聞き取り、会派会議にて手話通訳者についての確認事項を取り決めたのが下記である。

「手話通訳者についての確認事項」

1　公費負担・公費手配するもの

(1) 本会議、議会運営委員会、常任委員会、特別委員会、全員協議会など、議長等が招集する会議に議員又は委員として出席する場合は、会議時間等を考慮したうえで必要な人数の手話通訳者を公費負担により設置する。

(2) 常任委員会、特別委員会など公務による視察に出席する場合についても、原則、公費負担により手話通訳者を設置及び視察先に手配を依頼する。

(3) 市議会事務局又は市執行部からの報告・説明など、上記の会議に付随する場合は、手話通訳者を公費負担により設置する。

2　上記以外のもの

(1) 原則、当該議員が手話通訳者の手配を行うものとする。なお、手話通訳者にかかる経費は政務活動費として計上することを今後検討する。

3　その他

(1) 公費負担による手話通訳者の費用については、令和元年 5 月臨時会での補正予算として 2,000 千円を要求する予定

(2) その他の事項については、その都度協議する。

4 月から

当選証書付与式、初当選議員研修等のおける手話通訳者の配置

5 月臨時会から

①手話通訳者の本会議場での配置は、自席の議員に議長、他の議員又は議事説明員の発言内容を手話により伝達。常任委員会での配置は、委員の手話（質疑、意見）を読み取り発話（ピンマイク使用）を行う。委員に委員長、他の委員又は議事説明員の発言内容を手話により伝達。

②簡易採決から挙手採決への変更

③補正予算

・手話通訳者等に関する報償費 2,000 千円

・筆談ボード（A4サイズ）3台18千円
・議員控室呼び出し機器（セントラルアラーム）の設置32千円

④議会運営及び行政視察に関する対応（5月末の確認）

＜議会運営に関する対応＞

本会議

・当該議員には手話通訳者を配置するともに、必要に応じて資料の指目補助者を配置する。
・上記の手話通訳者の配置以外の対応策として、当該議員の席に音声認識システムによる自動文字表示モニターの設置を検討する。
・聴覚障がいを有する傍聴者については、手話通訳者を配置する。それ以外に、音声認識システムによる、傍聴席に常設の液晶モニターへの自動文字表示を検討する。

常任委員会、特別委員会及び議会運営委員会

・本会議と同様の取扱いとし、当該議員の傍聴には手話通訳者を配置する。

＜行政視察に関する対応＞

・当該議員が所属する委員会の行政視察については、視察先に手話通訳者の手配を依頼する。（状況により豊田市で謝礼を対応）

6月定例会から

①報道機関の取材対応に関する方針の整理・依頼（マスコミ対応が大変）
②議会運営に関する対応の実施

7月から

①当該議員、手話通訳者、関係部局（障がい福祉課）、議会事務局による意見交換の実施
②正副議長、議運長、手話通訳者及び関係部局による意見交換の実施

9月定例会から

①一般質問、討論のリハーサル及び本番の支援
・質問席での当該議員の手話（一般質問、議案質疑）を手話通訳者が読み取り発話（ピンマイク使用）する。手話通訳者は当該議員に議長又は議事説明員の発言内容を手話により伝達。
・演壇での当該議員の手話（討論）を読み取り発話（ピンマイク使用）する。

□庁舎及び議場のバリアフリー対応について

議場内は、車いす使用が可能なフロア設計となっており、傍聴席は122席中車イススペース6台となっている。

□これまでの対応から明らかになった事項

①当該議員は手話を第一の意思疎通手段としている（本人の意思尊重）

②会議等において、資料がない場面では手話通訳のみで十分に意思疎通ができないことがある。

③議会中に集中して複数人の手話通訳者の手配を要するため、執行部側の手話通訳職員配置に欠員が生ずるケースがある。

④資料の指目（指差し補助）範囲を見極める必要がある。

⑤議会傍聴の視点から、全ての難聴者が手話を理解しているわけではない。

⑥議員が議会・議員活動を行うことにより、議会のみに留まらず執行部側もバリアフリー対応の意識がより一層高まった。

視察の成果

本市の議場は「階段室型」であるため、車イス議員用の議席、登壇席には仮設スロープの設置などの対策が必要であり、また傍聴席入場においても階段をクリアーしなければ入室できない状態であるため、ハード面においてはかなりの費用が掛かることが予想される。ソフト面においては介助者の入場、採決の方法、パソコンの持ち込み、議員活動中の介護サービスの適応のほか、議員活動を行っていく上で、予算・決算等にある専門用語について手話を通してどのように理解を得、コミュニケーションを図るのか、一つ一つ当事者からどのような対応、介助が必要かを把握・話を聞くことがまず必要なことだと考えます。

議員活動中の介助費の公費負担については、どこまでを公費とするか私費とするかの判断が困るところもあるため、豊田市では今でも先進地視察を行って対応を検討されている状況です。

本市においても今後、障がい議員が誕生する可能性がありますので、議会のバリアフリー対応を準備することも必要かと考えますが、まず先に議会傍聴席対応として手話通訳、要約筆記実施要綱等の準備が急務と考えます。

東京都あきる野市　「議会だよりについて」

R2/1/21 視察

■主な視察内容

□全面リニューアルに至る経緯について

①なぜリニューアルが必要だったか

・リニューアル前の議会だよりは、年間 3,890 千円の発行経費に対して読者が少ないこと。

・これまで通り発行するのかどうか問題であった。

②リニューアルまでのプロセス

・平成 21 年の議会改選に伴い、若手議員を中心に調査研究グループを結成し編集委員会へ提案することになった。

・調査研究グループ結成

（議員 3、職員 1　期間＝平成 23 年 10 月～24 年 5 月）

より多くの人に読んでもらうための内容検討 10 回実施

平成 23 年 10 月市民アンケート実施

来庁者 270 人が協力して、他市（10 市）の議会だよりの中からどれが見たいか投票した結果、あきる野市議会は 4%（同情票？）であった。編集委員会へリニューアルを提案、更に代表者会議へも提案してリニューアルを決定した。

③内容検討前に

・なにを・・・「手にとってもらえる表紙づくり」

「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」

・いつまでに・・・平成 25 年 2 月 1 日（第 70 号）

④検討内容

その 1：興味を引く特集と表紙（ターゲットを決める）

・市民だよりのターゲットは全市民

・ターゲットを絞った特集

（子育てママ、若手農業者、大学生、消防団員、市に所縁のある署名人健康づくり推進市民委員、市外からの移住者、外国人、JR 五日市線利用者、スポーツ指導者など）

・委員 2 名が取材の担当を行うことにより、議会と市民との距離を縮める効果にもなる。

・表紙は特集とリンクさせる（手に取るきっかけとなる）

・タイトルは引っかかるもの、議会の思いをのせる。

・「ギカイの時間」に決定（生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間にしてほしい）

その２：読みやすさ、導線、ホワイトスペース、統一感

・読んでもらうための冊子

・レイアウト、デザインなどプロにも協力依頼

その３：裏表紙

・小学生が夢を語るコーナー（市内 10 小学校で抽選児童）

その４：議案審議・一般質問

・議案説明　行政用語を「通じる言葉」に
　　知らせたいことと知りたいことの差
　　読んでほしい量と読める量の差

・ピックアップ方式に変更
　おおむね３件、分かりやすい文章に置き換え、写真つきで説明

・一般質問
　答弁者名をカット、一問一答方式、顔写真、字数は維持、QR コード（動画へリンク）

⑤効果・課題

・効果測定実施（平成 25 年４月 19 日）
　200 人中 85％の市民から好評価を得た。

・持続性（コンセプトを守る・担当者の理解・４年に１回の見直し検討）

・配布方法（新聞折り込み以外に、希望者には郵送）

□あきる野市議会だより「ギカイの時間」

①A４判の冊子タイプ

②年４回発行

③ページ数は２月号と８月号が 20 ページ、予算・決算審査の特集を組む５月号と 11 月号は 24 ページ

④全ページカラー印刷（緑色主体）

□「ギカイの時間」の特徴的な３つの工夫ポイント

①表紙へのこだわり、手に取ってもらえる表紙づくり

②詰め込み過ぎない

③号ごとにターゲットを変え、新規読者を獲得

□経費について

議会報発行経費　リニューアル前（24 年度）　―　3,890 千円
　　リニューアル後（25 年度）　―　4,428 千円
　　（全ページカラー化、ページ増で約 500 千円増）

視察の成果

本市の「議会だより」は、討論・一般質問が中心となっていて、それらを羅列することで窮屈な紙面となっているのが現状で、はたしてどれだけの市民の方に読まれているのか疑問である。

あきる野市議会だよりのリニューアルは、市議会議員選挙において議員の若返りがあり、議会報を良くしようとする姿勢から市民アンケートを実施し、調査研究グループを結成して全10回も内容を検討して、編集委員会で決定している。その内容は、市民に手に取ってもらえる表紙づくり、詰め込み過ぎない、号ごとにターゲットを変えての新規読者の獲得であった。また、小学生に将来の夢を語ってもらうコーナーを設けることで地域の関心を高めている。

議会報「ギカイの時間」を拝見し、表紙はターゲットの人物写真、ページをめくればターゲットとの座談会記事、次に議案審議、一般質問、議会活動レポートと続く内容です。特徴はホワイトスペース（余白）を全ページに渡って十分に取り、写真の大きさや向きはコーナーごとに統一され、議決・質問は全て載せるのではなく、市民生活に身近なものをピックアップして掲載し、緑をベースとしたカラー印刷で全体的にスッキリしたページデザインとなっている。また、QRコードを掲載して議員の一般質問への動画にリンクすることも面白いアイデアと思います。

多くの市民の方に読んでもらえる議会報にするためには、レイアウトとデザインが大切であることは間違いない。そのためにはプロの協力も必要であり、初期投資も必要となると思いますが、魅力ある議会報づくりには意欲を持った議員が中心となって取り組むことが必要であると感じました。

議会運営委員会　行政視察報告書

豊明市議会議員　堀内　ちほ

視察日

令和２年１月２０日（月）
令和２年１月２１日（火）

視察先

豊田市（愛知県）　　１月２０日（月）
あきる野市（東京都）　　１月２１日（火）

令和２年１月２０日（月）愛知県豊田市

豊田市　バリアフリーへの取り組みについて

豊田市は県中央部に位置し、県下最大の面積を持ち、県土の２割弱を占める。
日本を代表するグローバル企業のトヨタ自動車が本社を置く「車のまち」で、市内には７つのトヨタ自動車の工場があり、製造品出荷額は全国１位。
日本を代表する工業都市である一方、市域の約７割が森林で田園地帯も広がり、稲作の他、茶や梨などの栽培もおこなわれている。
全市区町村順位：財政力指数７位・農業２９６位・工業１位・所得７５位。

昨年の統一地方選の市町村選挙で、豊田市在住の聴覚に障がいがある中島竜二議員が当選された。
中島議員は、生まれつき耳が不自由で声を出して話すことは出来ず、普段の生活では手話と、タブレット端末による筆談によるもの。
豊田市は、すでに障がいを持つ方への『合理的配慮』を行われていたが、中島議員当選後、新たに取り組まれた事等を学ばせて頂いた。

・障がい者を有する議員への活動支援について

①平成１１年１２月から

議会傍聴に対する手話通訳・要約筆記手配（５日前までに申し込み）

②平成３１年４月改選直後

「手話通訳者についての確認事項」

1　公費負担・公費手配するもの

(1) 本会議・議会運営委員会・常任委員会・特別委員会・全員協議会など、議長が招集する会議に議員又は委員として出席する場合は、会議時間を考慮したうえで必要な手話通訳者を公費負担により設置する。

(2) 常任委員会、特別委員会など公務による視察に出席する場合についても、原則、公費負担により手話通訳者を設置及び視察先に手配を依頼する。

(3) 市議会事務局又は市執行部からの報告・説明など、上記の会議に付随する場合は、手話通訳者を公費負担により設置する。

2　上記以外のもの

(1) 原則、当該議員が手話通訳者の手配を行うものとする。
なお、手話通訳者にかかる経費を政務活動費として計上することを今後検討する。

3　その他

(1) 公費負担による手話通訳者の費用については、令和元年５月臨時会での補正予算として 2,000 千円要求予定

(2) その他の事項については、その都度協議する。

４月より、当選証書付与式、初当選議員研修等における手話通訳者の配置。

③５月臨時会から

1.手話通訳者の手配及び議場・委員会室における配置場所の調整
（自席・質問席）

2.簡易採決から挙手採決への変更
（※基本は挙手採択との事）

3.補正予算の提出・議決（手話通訳者等に関する報酬費 2,000 千円）

・筆記ボード購入（３台 1,800 円）

・議員控室呼び出し機器（32,000 円）設置

・議会運営及び行政視察に関する対応について整理

④６月定例会から

1.報道機関における本会議及び委員会開催時の取材対応に関する方針の整理・依頼

2.本会議、所属委員会及び他の委員会膨張時における手話通訳者の配置

3.本会議における議案質疑のリハーサル及び本番の支援

4.所属委員会に於る資料の指目（指差し補助）

5.音声認識システムによる会議要旨の提供

6.政務活動費条例の一部改正条例提出・議決(意思疎通支援者謝礼追加)

7.執行部の当該議員への対応

⇒市福祉部常駐の手話通訳職員の支援による意思疎通

・中島議員・手話通訳者、関係部局との意見交換会

・行政視察先の手話通訳者手配（受け入れ側への支払い 33,000 円）

・会議時発話用ピンマイク（２基 84,000 円）購入。

⑤９月定例会から

1.一般質問、討論のリハーサル及び本番の支援

2.手話通訳者の議場における配置場所等の調整（演壇）

・庁舎及び議場のバリアフリー対応について

(1) 議場内は車いす使用可能なフロア設計

(2) 傍聴席１２２席（車いすスペース６台）

・これまでの対応から明らかになった事項

1.中島議員は手話を第一の意思疎通手段としている。

2.本会議及び委員会において、資料がない場面では手話通訳のみで十分に意思疎通できないことがある。（委員会における他の議員の質疑答弁、本会議における討論など）

3.議会中に集中して複数人の手話通訳者の手配を要するため、執行部側の手話通訳職員（窓口対応等）配置に欠員が生じるケースがある。

4.資料の指目（指差し補助）範囲を見極める必要がある。

5.議会傍聴の視点から、全ての難聴者が手話を理解（習得）しているわけではない。

6.議員が議会・議員活動を行うことにより、議会のみに留まらず執行部側もバリアフリー対応の意識がより高まった。

まとめ

現在、愛知・岐阜・三重３県の７３市議会のうち、車いすに乗ったまま使える議席がある議会は３６％にあたる２６議席。

車いす利用者の現職議員がいるのは名古屋市だけで、６２市議会は車いす利用者が議員になった事がなかった。

車いすに乗ったまま使える議席がある市議会は、愛知３８市町中１４市、岐阜２１市中６市、三重１４市中６市。

議員への情報提供として『手話』に対応しているのは７市。

『要約筆記』は４市、いずれも愛知県内。

と、障がいを持った方が議員活動をするには、まだまだ十分な環境であるとは言えないのが現状。

豊明市の議場も、議員席、質問席には階段があり、車いすを利用される方がいれば『合理的配慮』を行わなければならない。

豊田市の議場は２０年も前からバリアフリーを実現されていて、今回の聴覚障がいをお持ちの中島議員に対しても早急な対応をされていた。

他市の状況調査モデルとされたのは明石市。

これだけの早い対応を実現できたのは、財力のある豊田市の強みとも思われるが、多額の税金を投じても『合理的配慮』にて、健常者・障がい者が公平でいられる議会を選択されるのは市民。

今回の視察で、手話通訳者の人数と総報酬額にも驚いたが、それだけ手話通訳者が稀少ということ。

窓口対応の手話通訳職員（市職員）を使えば配置に欠員が生じたりとの問題もあり、豊田市職員が手話の勉強をはじめている。

まずは、豊明市でも出来ることの１つから、手話の勉強に取り組みたい。

令和２年１月２１日（火）東京都あきる野市

議会だよりについて

あきる野市の党派別議員は、

無所属３人、共産党３人、公明党３人、自民党９人、

国民民主１人、立憲民主１人、　　計２０人。

あきる野市の議会報「ギカイの時間」がリニューアルされたのは、
０／３０の数字がキーワード。
平成２０年度に行われた、「手に取りたい議会報アンケート」で、３０自治体の中で、一人も手に取りたいとは思われなかったという結果を受け、平成２１年の改選時に、新人議員がリニューアルを提案された。

「議会だより」を「ギカイの時間」と表題も変更。
生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間にしてほしい。
シギカイの時間⇒ギカイの時間
文字の視覚効果を使い、
議会（漢字）・・・堅い・まじめ
ぎかい（ひらがな）・・・やわらかい
ギカイ（カタカナ）・・・軽い、現代的
ＧＩＫＡＩ（アルファベット）・・・図形的
の中からカタカナ、ひらがな、漢字が使われることとなった。
以前は２色刷りだったものが、現在は全カラーページ印刷。
「ギカイの時間」の特徴的な工夫ポイントは、
①表紙へのこだわり、手に取ってもらえる表紙作り
②詰め込み過ぎない
③号ごとにターゲットを変え、新規読者を獲得の３つ。

新規読者獲得には、様々な「仕掛け」があり、街頭特集の座談会として、子育てママや、高齢者クラブ、消防団員、高校生など様々な市民が登場。
それぞれが、日々感じている事や、課題と思っていることなどをざっくばらんに話してもらい、議会とコミュニケーションをする企画。
座談会のタイトルは、高校生に登場してもらう時には「高校生×市議会」など。
また、表紙の写真には、座談会参加者の中から選出。あえて表紙と連続性を持たせ、表紙を開いてスッと読み始めることができる様にとのこと。

最終ページの裏表紙の「きかせて！あなたの未来」は市内１０校ある小学校をリレーし、各校の小学６年生に「議会だよりに出たい人いますか！」と呼びかけ、選ばれた児童に将来の夢を語ってもらう企画。

座談会の記事は議会事務局が、小学校リレーの記事は議員が書くなど役割分担をされている。

一般質問の記事は、原稿も写真も議員本人が用意。
答弁原稿は、議会だよりを編集している広報公聴委員メンバーが書くというように、ここでも役割分担がされ、負担軽減がされていた。

まとめ

「ギカイの時間」は、余白も多く、スッキリと読みやすい冊子。
市民の皆さんと一緒に作られているだけあって、１冊の中に沢山の「人」の写真が掲載されていて、とても身近に感じられた。
これだけ、写真が載っていれば、知っている人がいるのでは？と探す楽しみもあるし、内容も、難しい用語は全てわかりやすい言葉に変えられ、誰にでも読めるものとなっているところは、年齢に関係なく、新規読者獲得にもつながる。
プレゼンして下さった明るく元気な女性議員が最後に「ＴＴＰの精神で！」と言われた。

「　Ｔ　Ｔ　Ｐ
　⇑　⇑　⇑
　徹底的にパクって下さいね！」と。

この「ＴＴＰ！」という斬新的な言葉を使われたことが、とても衝撃的だった。
通常、使われない言葉を敢えて使われる、あきる野市の発想の柔軟さが紙面にも表れ、多くの市民の方々に愛される議会誌となったのであろう。

ぜひ、あきる野市を参考に、楽しんで読んで頂ける豊明市ならではの「議会だより」に取り組んでいきたい。